

国際オーソモレキュラー医学会

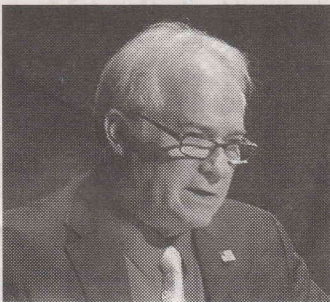
歯科と全身の関係説明

歯科セッションで森永氏ら



国際オーソモレキュラー医学会の第47回世界大会(柳澤厚生会長)が4月27日から3日間、東京・渋谷のセリアンタワー東急ホテルで開かれた。オーソモレキ

海外からの参加者も多い同学会では同時通訳とともに英語と日本語のスライドを両方映し出す配慮があった④Levy氏④森永氏



ユラー歯科医学「全身との関係性と改善法」をテーマにしたセッションも設けられ、米国のリオルダン・クリニック顧問のThomas Levy, MD, JDと千葉県開業歯科医の森永宏喜氏が講演した。

Levy氏は「知られざ

効果」をテーマに、健康寿命の延伸に歯科が貢献し得る研究結果が出てきていると説明。さまざまな全身疾患に關係するp・g菌について紹介し、3DSによる歯周病治療により、高感度CRPがどのように変化したかについて解説した。

国際オーソモレキュラー

医学会は、分子整合栄養療法の総本山としてカナダで設立され、21カ国が参加している国際組織。同大会は「栄養医療がつくる健康な未来」をメインテーマに、「栄養と食で創る健康な未来」「オゾン療法の臨床」「認知症治療における栄養療法の進歩」「自閉症における最新栄養療法」などさまざまな発表があった。「水素を活用した新しいオーソモレキュラー医療」のセッションでは、「水素吸入と唾液pHとの関係」について、小峰歯科医院理事長の小峰一雄氏が講演した。

る伝染病・心臓発作と乳癌を引き起こす「口腔感染」と題して、根管処置歯の慢性感染リスクについて警鐘を鳴らし、慢性炎症がさまざまな全身疾患を引き起こす危険性があると訴えた。

森永氏は、「3DS 歯周

病治療による抗加齢医学的